

## 統合科目（4年次生、5年次生）

(1) 臨床解剖学	(4年)	169
(2) 臨床歯科器材・薬剤学	(5年)	171
(3) 齶蝕・歯周病学	(4年)	173
(4) 接着歯学	(5年)	175
(5) 顎口腔機能・解析学	(5年)	177
(6) 口腔腫瘍学	(5年)	179
(7) 口腔感染症及び免疫学	(5年)	181
(8) 硬組織科学	(5年)	183
(9) 成育歯学	(5年)	185
(10) 臨床薬理学	(5年)	187
(11) 口腔顔面疼痛学	(5年)	189
(12) 臨床検査学	(5年)	191
(13) 医療面接	(5年)	193
(14) 歯科臨床東洋医学	(5年)	195
(15) 摂食嚥下リハビリテーション学	(5年)	197
(16) 口腔インプラント学	(5年)	199
(17) 睡眠障害と疾患	(5年)	201
(18) 高齢者歯科学	(5年)	203
(19) 障害者歯科学	(5年)	205
(20) 離島歯科医学	(5年)	207
(21) 社会歯科学	(5年)	209
(22) 総合歯科学	(5年)	211

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅰ～Ⅱ	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054601		
科目ナンバリング・コード	DNGD33241901		
授業科目名/(英語名)	臨床解剖学/(Applied Anatomy)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部解剖実習室・医学部解剖実習室・講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 真鍋義孝/manabe@nagasaki-u.ac.jp/ A棟6階顎顔面解剖学教授室/095-819-7627/月、火、金曜 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中村 卓 taku@、木村泰男 kimyasu@、吉田教明 nori@、梅田正博 mameda@、柳本惣市 syana@、 鳴瀬智史 naruse12@、鳥巢哲朗 torisu@、鮎瀬卓郎 ayuse@、久松徳子 norinori@、 真鍋義孝 manabe@、北川賀一 kitagawa@、小山田常一 oyamada@		
授業の概要及び位置づけ  臨床に必要な局所解剖学的知識について、御遺体を用いて形態・構造および機能を理解し、臨床手技を解剖学的に理論化して把握することにより、臨床の現場における種々の問題に適切に対応できる能力を育成することを目的とする。			
授業到達目標  1.頭蓋骨の観察及び計測ができる。 2.神経ブロックの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。 3.気道確保、気管内挿管、および心臓マッサージの手技について解剖学的知識をもとに説明できる。 4.頸部郭清、唾液腺切除、顎切除の手技について解剖学的知識をもとに説明できる。 5.顎関節疾患について、解剖学的知識をもとに説明できる。 6.摂食・嚥下障害のリハビリテーションについて説明できる。			
授業方法(学習指導法)  オムニバス方式で講義、実習を行う。実習は学生6～7人に御遺体1体を用いる。またパソコンを用いた実習についても同様に行う。教室作成の冊子を配付する。適宜、プリント、スライド等を使用する。			
授業内容 1回目 概説:授業の目的、方法、解剖学的姿勢、頭頸部区分、皮膚、頭蓋骨のサイズ、孔等の確認 2回目 頭頸部の解剖(1):頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び生体計測 3回目 頭頸部の解剖(2):頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び生体計測 4回目 神経ブロック:三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの頭蓋骨実習 5回目 X線診断:頭頸部領域の画像診断とその方法の講義 6回目 顎の成長:顎の成長と顎切り術の適応の講義 7回目 全身管理:循環器の確保、気道確保の講義 8回目 唾液腺等の切除:唾液腺の切除の適応と方法の講義 9回目 頸部郭清の講義 10回目 顎関節の運動:顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義及び実習 11-12回目 神経ブロック:三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの遺体実習(※1) 13-14回目 唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遺体実習(※1) 15-16回目 頸部郭清の遺体実習(※1) 17-18回目 側頭下窩・顎関節周辺の遺体実習(※1) 19-20回目 摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学と遺体実習(※2) ※1 医学部解剖実習室にて遺体実習を行うので、帽子・マスク・白衣・手袋・専用の上履きを準備すること。 ※2 歯学部解剖実習室にて遺体実習を行うので、帽子・マスク・白衣・手袋・専用の上履きを準備すること。			
キーワード	マルチンの骨計測、神経ブロック、術式、緊急時の蘇生術、顎関節		
教科書・教材・参考書	教科書等:歯科学生のための臨床解剖学ノート(教室作成編)、担当教員による配付資料 参考書:口腔解剖学全5巻(上條雍彦)等		
成績評価の方法・基準等	課題レポートの評価に加えて、骨学実習や遺体実習への取り組みと理解度について総合的に評価を行い、成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。		
受講要件(履修条件)	講義・実習には毎回出席し、ノートや記録を取る。2年次の解剖学で修得した知識について復習して、遺体実習に望むこと。質問は講義実習中に随時受け付けるがオフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。		
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで十分に予習を行っておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	月	I	概説 授業の目的、方法、解剖学的姿勢、頭頸部区分、皮膚、頭蓋骨のサイズ、筋の附着部・管・孔・裂などの確認	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
2回	10	2	月	II	頭頸部の解剖(1) 頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び頭蓋骨計測	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
3回	10	16	月	I	頭頸部の解剖(2) 頭蓋骨標本、ADAM等を用いての頭頸部の解剖及び頭蓋骨計測	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
4回	10	16	月	II	神経ブロック 三叉神経、顔面神経等の神経ブロックの頭蓋骨実習	真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
5回	10	23	月	I	X線診断 頭頸部領域の画像診断とその方法の講義、実習	中村 卓 木村泰男	講義室6A
6回	10	23	月	II	顎の成長 顎の成長と顎切り術の適応の講義及び実習	吉田教明	講義室6A
7回	10	30	月	I	全身管理 循環器の確保、気道確保の講義及び実習	柳本惣市	講義室6A
8回	10	30	月	II	唾液腺の切除 唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の適応と方法の講義	柳本惣市	講義室6A
9回	11	6	月	I	頸部郭清の講義	柳本惣市	講義室6A
10回	11	6	月	II	顎関節の運動 顎関節、顎骨、筋の形態、構造、機能の講義及び実習	鳥巢哲朗	講義室6A
11回	11	13	月	I	神経ブロック 三叉神経等の神経ブロックの遗体実習	鮎瀬卓郎 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
12回	11	13	月	II	神経ブロック 三叉神経等の神経ブロックの遗体実習	鮎瀬卓郎 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
13回	11	20	月	I	唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遗体実習	梅田正博 柳本惣市 鳴瀬智史 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
14回	11	20	月	II	唾液腺(顎下腺・耳下腺)の切除の遗体実習	梅田正博 柳本惣市 鳴瀬智史 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
15回	11	27	月	I	頸部郭清の遗体実習	梅田正博 柳本惣市 鳴瀬智史 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
16回	11	27	月	II	頸部郭清の遗体実習	梅田正博 柳本惣市 鳴瀬智史 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
17回	12	4	月	I	側頭下窩・顎関節周辺の遗体実習 (顎動脈の枝、下顎神経の枝、舌骨上筋群)	鳥巢哲朗 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
18回	12	4	月	II	側頭下窩・顎関節周辺の遗体実習 (顎動脈の枝、下顎神経の枝、舌骨上筋群)	鳥巢哲朗 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(医)
19回	12	11	月	I	摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学と遗体実習 (舌・咽頭・喉頭の剖査)	久松徳子 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)
20回	12	11	月	II	摂食・嚥下障害の理解に必要な解剖学と遗体実習 (舌・咽頭・喉頭の剖査)	久松徳子 真鍋義孝 北川賀一 小山田常一	解剖実習室(歯)

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054602		
科目ナンバリング・コード	DNGD33251985		
授業科目名/(英語名)	臨床歯科器材・薬剤学/(Clinical Dental Apparatus & Pharmacy)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 村田比呂司 /hmurata@nagasaki-u.ac.jp/ 歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/火曜 17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	大場誠悟, 渡邊郁哉, 朝比奈泉, 山田志津香, 柳口嘉治郎, 西下一久, 白石孝信, 中村弘隆, 古堅麗子, 吉田圭一, 久保至誠, 小山善哉, 田上直美, 村田比呂司		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科臨床において歯科器材と薬剤の占める比重は大きく、市場には新製品や改良品が輩出している。多種多様な製品の中から個々の症例に有用なものを選択するためには、正確な知識の蓄積と冷静な判断力が必要となる。</p>			
授業到達目標			
<p>歯科治療に必要な歯科器材と薬剤について、その選択法や最適な使用方法を治療別に解説し、臨床実習直前の学生に最新の知識と今後の変化・発展に対して柔軟に対応できる判断力を身に付けさせる。</p>			
授業方法(学習指導法)			
<p>パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い、必要に応じてプリントを配布する。</p>			
授業内容			
<p>1 回目 感染予防用 (1)術者の感染予防, 手術野の消毒  2 回目 歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー  3 回目 感染予防用 (2)診療室での感染対策  4 回目 修復・補綴用 (1)印象材の特徴, 印象採得法  5 回目 歯内療法用 根管長測定器, 根管充填剤, 覆髄剤, 根管消毒薬  6 回目 感染予防用 (3)衛生的な環境作り, トレー消毒  7 回目 修復・補綴用 (2)エアータービン, 研磨材  8 回目 歯周治療用 (1)外科処置用器材, 処理後のパック  9 回目 歯周治療用 (2)局所的治療薬, 全身の治療薬  10 回目 歯周治療用 (3)手用スケーラー, 器械的スケーラー  11 回目 修復・補綴用 (3)合着用セメント, 仮着材  12 回目 修復・補綴用 (4)接着性修復材料  13 回目 修復・補綴用 (5)咬合・適合診査材, リライン材  14 回目 在宅歯科診療用ポータブルユニット, 器材  15 回目 修復・補綴用 (6)硬質レジン, 床用レジン  16 回目 修復・補綴用 (7)義歯安定剤, 義歯洗浄剤</p>			
キーワード	歯科器材 歯科薬剤 臨床術式		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の 2/3 以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	今まで、まとまった形では聞くことのできなかつた話を、オムニバス形式で専門家によって分りやすく講義するので、まずは出席することを心がけて欲しい。数年前に聞いて忘れかけているかもしれない細菌学, 薬理学, 歯科理工学などの知識も頭の中で再構築され、目前に迫った臨床実習に必ず役に立つはずである。なお講義の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	8	月	I	感染予防用 (1)術者の感染予防,手術野の消毒:術者の予防として感染源と感染経路に配慮する。手術野の消毒には組織刺激性、殺菌力、効果の持続性を目安に薬剤を選ぶ。	大場誠悟	講義室6B
2回	5	8	月	II	歯周・歯内・修復・補綴 歯科用レーザー:歯科用レーザーの用途は多種類あり、主に歯周治療や歯内治療、保存修復、外科治療、補綴技工に使用されるレーザーの種類やレーザー機器の原理・使用法を理解することは重要である。	渡邊郁哉	講義室6B
3回	5	15	月	I	感染予防用 (2)診療室での感染対策:滅菌器と消毒薬、防護用具が感染対策として使用される。それらの対象物、対象菌、特性、用法、安全性などを概説する。	朝比奈泉	講義室6B
4回	5	15	月	II	修復・補綴用 (1)印象材の特徴,印象採得法:鑄造修復物を製作するためには各種印象材の特性を理解した上での精度の良い印象採得法が必須である。印象方法により注意すべき点が異なるので熟知すること。	山田志津香	講義室6B
5回	5	15	月	V	歯内療法用 覆髄剤,根管消毒薬,根管長測定器:根管充填剤は術前、術中の臨床症状、根管の形態・状態に応じて適切に選択/適応する必要がある。アレルギーや薬剤過敏症の患者も増加傾向にあるので注意。	柳口嘉治郎	講義室6B
6回	6	9	金	I	感染予防用 (3)衛生的な環境作り,トレー消毒:診療室をクリーンに保つためにはスタッフ全員が院内感染に対する正しい知識を持つ事が大切である。印象と模型の精度を落さない消毒法や医療機器関連法律(薬機法)についても話す。	西下一久	講義室6B
7回	6	9	金	II	修復・補綴用 (2)エアータービン,研磨材:歯科臨床においては、窩洞形成や支台歯形成、修復物の作製工程などで切削や研磨の機会が多い。エアータービンの構造,切削・研磨の理論,各種の切削材や研磨材の特徴について話す。	白石孝信	講義室6B
8回	6	12	月	I	歯周治療用 (1)外科処置用器材,処理後のパック:外科用器材には正確に目的を達成できるものを選ぶ。使い易く消毒に耐えることも必要である。パックは成分や貼用方法、除去時期を知って使う。	中村弘隆	講義室6B
9回	6	12	月	II	歯周治療用 (2)局所的治療薬,全身的治疗薬:局所治療薬はポケット内細菌叢の変化を目的とするのか、あるいは消炎を目的とするのか、その目的に応じた薬剤を選択する。	中村弘隆	講義室6B
10回	7	5	水	III	歯周治療用 (3)手用スケーラー,器械的スケーラー:ハンドスケーラーは形態、硬さが適切で滅菌に耐えるものがよい。基本セットの使用法に習熟すること。超音波スケーラー等の機器を併用すれば能率が上がる。	古堅麗子	講義室6B
11回	7	5	水	IV	修復・補綴用 (3)合着用セメント,仮着材:歯髄保護のためには辺縁封鎖性の優れた接着性レジンが望ましいが、操作性は従来型セメントとはやや異なる。仮着材はカルボン酸系のものが扱い易い。	吉田圭一	講義室6B
12回	7	11	火	I	修復・補綴用 (4)接着性修復材料:MIの実践および歯髄保護のためには接着性修復材料が不可欠である。接着性修復材料は多種類あり、症例や用途に応じて選択することが重要である。	久保至誠	講義室6B
13回	7	11	火	II	修復・補綴用 (5)咬合・適合診査材,リライン材:補綴物装着時の咬合や適合チェックの診査材は正しい選択が必要である。リライン材、ティッシュコンディショナーは各材料の特徴を把握することが重要である。	村田比呂司	講義室6B
14回	7	11	火	III	在宅歯科診療用ポータブルユニット,器材:要介護高齢者に潜在する歯科治療ニーズは高く、臨床現場では軽量でコンパクトなパッケージの開発が求められる。最新の往診用機器・器材を解説し、医工連携の機器開発事業を紹介する。	小山善哉	講義室6B
15回	7	18	火	I	修復・補綴用 (6)硬質レジン,床用レジン:硬質レジンの種類は多く、それぞれの特徴を知って使うことが大切である。床用レジンにも常温重合型など多種類があり、目的に応じて使い分ける。	田上直美	講義室6B
16回	7	18	火	II	修復・補綴用 (7)義歯安定剤,義歯洗浄剤:義歯安定剤,義歯洗浄剤についての患者への適切な指導が重要である。	村田比呂司	講義室6B

年度 2017 学期 後期	曜日・校時 木・I～II	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054603		
科目ナンバリング・コード	DNGD33261989		
授業科目名/(英語名)	齲蝕・歯周病学/(cariology, periodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・演習形式	教室 第2講義室・臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 柳口嘉治郎/yanagi@nagasaki-u.ac.jp/齲蝕学分野講師室/095-819-7678(内7678)/各教員により異なるため要確認。			
担当教員(オムニバス科目等)	原 宜興、藤原 卓、内藤真理子、吉村篤利、柳口嘉治郎 他数名		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯及び歯周組織の健康を生涯にわたって維持・増進することによって患者様のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献できる歯科医師になるために、4年次までに学んだ個々の知識を基盤にして、これらを齲蝕・歯周病学として再構築し、個々の症例に対し細かく分析していくことで問題発見・解決能力を深めることを目標にしている。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。齲蝕の予防と治療の方法を説明できる。</li> <li>2. 乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴を説明できる。</li> <li>3. 歯周疾患の病因と病態を説明できる。</li> <li>4. 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。</li> <li>5. 口腔細菌、歯垢及び歯石について説明できる。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
<p>(1)講義形式(1、2回目)  (2)グループ討議(3～15 回目)小グループごとに症例が提示される。学生は症例分析・治療計画の立案を行い、グループ間で討議後、全体発表を行う。</p>			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 回目: 歯周病原性細菌(講義)</li> <li>2 回目: 小児の齲蝕(講義)</li> <li>3 回目: 歯周治療学1(グループ討議)</li> <li>4 回目: 歯周治療学2(グループ討議)</li> <li>5 回目: 歯周治療学3(グループ討議)</li> <li>6 回目: 歯周治療学4(グループ討議)</li> <li>7 回目: 歯周治療学5(グループ討議)</li> <li>8 回目: 歯周治療学6(グループ討議)</li> <li>9 回目: 歯周治療学7(グループ討議)</li> <li>10 回目: 齲蝕学1(グループ討議)</li> <li>11 回目: 齲蝕学2(グループ討議)</li> <li>12 回目: 齲蝕学3(グループ討議)</li> <li>13 回目: 齲蝕学4(グループ討議)</li> <li>14 回目: 齲蝕学5(グループ討議)</li> <li>15 回目: 齲蝕学6(グループ討議)</li> <li>16 回目: 総括</li> </ol>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	保存修復学、歯内治療学、歯周治療学、口腔微生物学、小児歯科学の教科書・参考書を用いる。		
成績評価の方法・基準等	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 論述試験</li> <li>(2) 観察記録とレポートの総合点で判定される。</li> </ol>		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 4年次までに学習した知識を基盤とする基礎—臨床縦断型の科目である。従って、疑問や不明な点を感じた場合は、該当科目の復習が必要となる。</li> <li>(2) 問題発見・解決能力を深めることがねらいなので、学生には主体的、積極的姿勢で取り組むことが求められる。</li> </ol> <p>都合により講義の内容及び順番等が変更になる場合は事前に連絡する。</p>		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	30	木	I	歯周病原菌の種類、歯周病原菌の病原因子、歯周病原菌の特性と歯周病態との関係 キーワード: 歯周病原性細菌、歯周病	内藤	第2講義室
2回	11	30	木	II	小児における齲蝕細菌の感染と齲蝕発生 キーワード: 母子感染、ミュータンスレンサ球菌、プラークバイオフィルム	藤原	第2講義室
3回	12	7	木	I	歯周治療学概論及び実習ガイダンス キーワード: 歯周病、歯周治療、治療計画	吉村	臨床実習室 4B
4回	12	7	木	II	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案 キーワード: 歯周検査、咬合診査、エックス線検査、歯周外科、メンテナンス	吉村	臨床実習室 4B
5回	12	14	木	I	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	吉村	臨床実習室 4B
6回	12	14	木	II	歯周疾患の症例分析と治療計画の立案	吉村	臨床実習室 4B
7回	12	21	木	I	治療計画の発表と討論	吉村	臨床実習室 4B
8回	12	21	木	II	治療計画の発表と討論、レポート作成	吉村	臨床実習室 4B
9回	12	28	木	I	メンテナンス治療 キーワード: 歯周検査、咬合診査、エックス線検査	吉村	臨床実習室 4B
10回	12	28	木	II	齲蝕学概論及び実習ガイダンス キーワード: 保存修復学、歯内治療学、治療計画	柳口	臨床実習室 4B
11回	1	4	木	I	症例分析と治療計画の立案	柳口	臨床実習室 4B
12回	1	4	木	II	症例分析と治療計画の立案	柳口	臨床実習室 4B
13回	1	11	木	I	治療計画の発表と討論	柳口	臨床実習室 4B
14回	1	11	木	II	治療計画の発表と討論	柳口	臨床実習室 4B
15回	1	25	木	I	レポート作成	柳口	臨床実習室 4B
16回	1	25	木	II	齲蝕・歯周病学について総括する	未定	臨床実習室 4B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054604		
科目ナンバリング・コード	DNGD33271986		
授業科目名/(英語名)	接着歯学/(Adhesive Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・演習形式	教室	講義室 6B・臨床実習室 4B・各教室
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田圭一/keiichi@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学教員室 8-1/095-819-7688(内 7688)/12:00~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	釜崎陽子, 久保至誠, 白石孝信, 平 曜輔, 西口美由紀, 吉田圭一 (50音順)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>包括的な歯科医療を実施できる歯科医師になるため、接着歯学に基づく修復法の基本的な知識と技能を修得する。種々の歯冠修復用材料と歯質間の接着や被着材間の接着、材料表面への細胞の接着など、歯科領域における接着現象に焦点を当てる。接着の基本的メカニズムを学習した後、小児歯科学、保存学、補綴学の各領域における接着の具体的事例や各種のテクニックを学ぶとともに、実習およびPBL(Problem-based Learning)によって接着歯学に基づく修復法の基本的な知識と技能を修得する。さらに、歯科生体材料表面への細胞の接着についても概説する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.接着のメカニズムを説明できる。</li> <li>2.症例に適した修復法を説明できる。</li> <li>3.接着法の臨床的手順を実施できる。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.講義は板書やプリント配布によるほか、スライド、液晶プロジェクターなどを用いて行う。</li> <li>2.実習は接着ブリッジの設計、形成と接着操作を模型上で行う。</li> <li>3.PBL では7~8人程度の少人数グループに分かれ、提示されたシナリオを分析して問題点を抽出するとともに、問題解決のための資料収集や討論などを通して自己主導型の学習を行う。</li> </ol>			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 回目: 歯科材料における接着(1)</li> <li>2 回目: 歯科材料における接着(2)</li> <li>3 回目: 小児歯科領域における接着(1)</li> <li>4 回目: 保存領域における接着(1)</li> <li>5 回目: 小児歯科領域における接着(2)</li> <li>6 回目: 保存領域における接着(2)</li> <li>7 回目: 接着ブリッジ実習関連講義</li> <li>8 回目: 補綴領域における接着(1)</li> <li>9 回目: 補綴領域における接着(2)</li> <li>10 回目: 接着ブリッジ実習(1)</li> <li>11 回目: 接着ブリッジ実習(2)</li> <li>12 回目: 接着歯学 PBL(1)</li> <li>13 回目: 接着歯学 PBL(2)</li> <li>14 回目: 接着歯学 PBL(3)</li> <li>15 回目: 接着歯学 PBL(4)</li> <li>16 回目: PBL まとめ</li> </ol>			
キーワード	接着, 機械的嵌合力, プライマー, ボンディング材, エナメル質, 象牙質, 接着ブリッジ		
教科書・教材・参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 榎本貢三ほか編集:スタンダード歯科理工学, 学建書院</li> <li>2. 日本接着歯学会編:接着歯学第2版, 医歯薬出版, 2015年</li> </ol> <p>※教材として授業中にプリントを配付することがある。</p>		
成績評価の方法・基準等	筆記試験(80%), 実習(20%)の総合評価とする。 それぞれの評価点の中には授業中の課題に対する積極的な取り組み状況も含まれている。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	接着歯学が基礎系および臨床系の諸科学に立脚した学問分野であることを認識し、講義、PBL、実習を通じて上記の到達目標が達成できるよう、自覚と積極的な勉学を期待する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	10	月	IV	歯科材料における接着(1) 固体表面の液滴の挙動, 接着のメカニズム, 接着性モノマーなどを解説する。	白石	講義室6B
2回	4	10	月	V	歯科材料における接着(2) 被着材の表面処理法, プライマー, レジンセメントなどを解説する。	白石	講義室6B
3回	4	11	火	III	小児歯科領域における接着(1) 小児歯科領域でのレジンの接着性およびシーラントを解説する。 1. 総論	西口	講義室6B
4回	4	11	火	IV	保存領域における接着(1) 接着の利点, 接着性修復材料に対する窩洞および取扱い方を解説する。	久保	講義室6B
5回	4	14	金	IV	小児歯科領域における接着(2) 小児歯科領域でのレジンの接着性およびシーラントを解説する。 2. 形態的考察	釜崎	講義室6B
6回	4	17	月	IV	保存領域における接着(2) 保存領域における接着術式の変遷と接着機構を解説する。	久保	講義室6B
7回	4	17	月	V	接着ブリッジ実習関連講義 接着ブリッジによる補綴の歴史, 特徴などを実習に関連づけて解説する。	平	講義室6B
8回	4	24	月	IV	補綴領域における接着(1) 補綴領域における接着性材料, 金属およびセラミックスの接着, 接着性レジンなどを解説する。	吉田	講義室6B
9回	4	24	月	V	補綴領域における接着(2) 補綴領域における接着を活かした臨床術式を紹介する。	吉田	講義室6B
10回	5	16	火	I	接着ブリッジ実習(1) 接着ブリッジの設計, 形成の実習を行う。	教員5名	臨床実習室 4B
11回	5	16	火	II	接着ブリッジ実習(2) 接着操作の実習を行う。	教員5名	臨床実習室 4B
12,13回	5	22	月	I~II	接着歯学PBL(1), (2) 補綴学領域に関連したシナリオを提示し, 小人数グループで事実や疑問点などを抽出する。	教員6名	6教室
14,15回	5	29	月	I~II	接着歯学PBL(3), (4) セッション, 自己評価と相互評価	教員6名	6教室
16回	5	29	月	V	まとめ PBLのシナリオを含め, 接着歯学の総括を行う。	吉田	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 水・I. II. III	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054605		
科目ナンバリング・コード	DNGD33281985		
授業科目名/(英語名)	顎口腔機能・解析学/(Functional Analysis of Stomatognathic System)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・実習形式	教室	講義室 6B・臨床実習室 4B
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鳥巢哲朗/torisu@nagasaki-u.ac.jp/歯科補綴学分野教員室/095-819-7693(内 7693)/16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	鳥巢哲朗、黒木唯文、多田浩晃、他 5 名		
授業の概要及び位置づけ			
顎口腔機能を生命・生体现象として捉え基礎科目と臨床科目との関連を考慮しつつ総合的に学習を進める。顎口腔系の正常機能を理解し、その構成要素である咬合の診査・診断・治療に関する知識を習得することを目指す。はじめに顎口腔系の構造および機能に関する講義を行い、基礎・臨床科目で学習した知識を再確認する。次に相互実習で下顎運動や咬合の診査と咬合器上での再現を体験しグループ討論を行う。最後に咬合と顎機能障害の関連性について解説する。			
授業到達目標			
1. 顎口腔系の構造と機能について説明できる。 2. 咬合状態と顎機能の診査法を説明できる。 3. 下顎運動の記録法を説明できる。 4. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
講義と実習を組み合わせで行う。講義では顎口腔機能と咬合との関連、咬合理論や顎機能障害に関する考え方の変遷等について解説する。実習では、顎機能および咬合の診査、ゴシックアーチ描記、咬合器の調節を体験し、グループ討議を通して知識の定着をはかる。			
授業内容			
1・2 回目 L1: かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/下顎の基本位と性質 /下顎基本運動/下顎限界運動/下顎機能運動/歯の接触/咀嚼系に調和した咬合 3・4 回目 P1: 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き/印象採得/石膏注入/模型調整(1) 5・6 回目 P2: 印象採得/石膏注入/模型調整(2)/フェイスポートランスファー/(咬合採得)/咬合器付着 7・8 回目 P3: チェックバイト記録/顎路計測/(ゴシックアーチ描記装置の製作) 9・10 回目 P4: ゴシックアーチ描記装置の製作/ゴシックアーチとタッピングポイントの記録 11・12 回目 P5: 症例提示/グループディスカッション(顎運動の再現性, 咬合採得, 症例) /発表(顎運動の再現性, 咬合採得) 13・14・15 回目 L2: 各班プレゼンテーション(提示症例)/顎機能障害の病態/咬合との関わり/古典的咬合論 /ナソロジーと中心位/生理学的咬合論/まとめ (L: 講義 P: 実習)			
キーワード	咬合, 顎位調節, ゴシックアーチ, 調節性咬合器, 顎機能障害, 口腔顔面痛		
教科書・教材・参考書	教科書: 無歯顎補綴治療学(細井紀雄ら編 医歯薬) 歯学生のパーシャルデンチャー(三谷春保編 医歯薬), 基礎歯科生理学(中村嘉男, 森本俊文編 医歯薬) 参考書: 入門咬合学(古谷野潔ら著 医歯薬) 目で見える咬合の基礎知識(古谷野潔ら編 医歯薬), 新編 顎関節症(日本顎関節学会編集 永末書店) OFPを知る-痛みの患者で困ったときに-(井川雅子ら著 クインテッセンス)		
成績評価の方法・基準等	定期試験時の筆記試験(60点), 実習に対する取り組み方(20点), 随時出題レポート(20点)		
受講要件(履修条件)	総授業時間の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	これまでに基礎・臨床科目で系統的に教授されてきた内容を関連づけて復習し, 咬合・顎機能への理解を深めること, 将来の臨床における補綴/咬合治療の指標となることを期待する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	26	水	I	講義1:顎口腔系の機能と構成 かむということ/かむとは動作学的に/咀嚼系の構成/顎運動の調節/ 下顎の基本位と性質	鳥巢	講義室6B
2回	4	26	水	II	講義1:顎口腔系の機能と構成 下顎基本運動/下顎限界運動/下顎機能運動/歯の接触/ 咀嚼系に調和した咬合	鳥巢	講義室6B
3回	5	10	水	I	実習1:咬合・顎機能診査, 印象採得 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き 印象採得(上下顎)/石膏注入/模型調整	教員8名	臨床実習室4B
4回	5	10	水	II	実習1:咬合・顎機能診査, 印象採得 咬合診査/下顎運動時の顎関節および顎筋の働き 印象採得(上下顎)/石膏注入/模型調整	教員8名	臨床実習室4B
5回	6	7	水	I	実習2:, フェイスポートランスファー, 咬合器付着 フェイスポートランスファー/咬合採得/咬合器付着	教員8名	臨床実習室4B
6回	6	7	水	II	実習2:, フェイスポートランスファー, 咬合器付着 フェイスポートランスファー/咬合採得/咬合器付着	教員8名	臨床実習室4B
7回	7	5	水	I	実習3:チェックバイト/咬合器調節 チェックバイト記録/顎路計測	教員8名	臨床実習室4B
8回	7	5	水	II	実習3:チェックバイト/咬合器調節 チェックバイト記録/顎路計測/(ゴシックアーチ描記装置の製作)	教員8名	臨床実習室4B
9回	7	12	水	I	実習4:ゴシックアーチ製作 ゴシックアーチ描記装置の製作	教員8名	臨床実習室4B
10回	7	12	水	II	実習4:ゴシックアーチ記録, 顎運動の再現性 ゴシックアーチとタッピングポイントの記録	教員8名	臨床実習室4B
11回	7	19	水	I	実習5:症例提示/グループディスカッション (顎運動の再現性, 咬合採得, 症例)	教員8名	臨床実習室4B
12回	7	19	水	II	実習5:各班発表 (顎運動の再現性, 咬合採得)	教員8名	臨床実習室4B
13回	7	26	水	I	講義2:各班発表 (提示症例)	鳥巢	講義室6B
14回	7	26	水	II	講義2:咬合理論の変遷/症例検討/総括 顎機能障害の病態/咬合との関わり/古典的咬合論	鳥巢	講義室6B
15回	7	26	水	III	講義2:咬合理論の変遷/症例検討/総括 ナソロジーと中心位/生理学的咬合論/まとめ	鳥巢	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054606		
科目ナンバリング・コード	DNGD33291987		
授業科目名/(英語名)	口腔腫瘍学/(Oral Oncology)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 各部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鳴瀬智史/naruse12@nagasaki-u.ac.jp/口腔腫瘍治療学分野教員室/095-819-7698(内7698)/17:00頃まで			
担当教員(オムニバス科目等)	梅田正博、川崎五郎、柳本惣市、五月女さき子、鳴瀬智史、奥山紘平、船原まどか		
授業の概要及び位置づけ  口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の概要を理解し、診断・治療の進め方を理解する。			
授業到達目標  1. 歯源性腫瘍および非歯源性良性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 2. 歯源性腫瘍および非歯源性良性腫瘍の診断と治療法を説明できる。 3. 非歯源性悪性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 4. 非歯源性悪性腫瘍の診断と治療法を説明できる。			
授業方法(学習指導法)  PBL および講義を行う。PBL では、口腔顎顔面部領域に発生する腫瘍の症例に関して、臨床像をより具体的に供覧し、コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を高めるようにする。講義では、口腔腫瘍学における最新の知見及び PBL で得られた知識の確認が行えるようにする。			
授業内容  1 回目 PBL 症例 part1 シナリオの提示、事実の抽出および仮説の設定(担当:各ファシリテータ) 2 回目 PBL 症例 part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ) 3 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 4 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 5 回目 PBL 症例 part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 6 回目 PBL 症例 part1 セッション(担当:各ファシリテータ) 7 回目 PBL 症例 part2 シナリオの提示、事実の抽出、仮説、学習課題の設定および分担(担当:各ファシリテータ) 8 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 9 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 10 回目 PBL 症例 part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 11 回目 講義(担当:柳本) 12 回目 講義(担当:鳴瀬) 13 回目 講義(担当:五月女) 14 回目 PBL 症例 part2 セッション(担当:各ファシリテータ) 15 回目 PBL 自己評価および相互評価(担当:各ファシリテータ) 16 回目 プレゼンテーション資料作成(自学自習)(担当:各ファシリテータ) 17 回目 プレゼンテーション(担当:奥山) 18 回目 プレゼンテーション(担当:奥山) 19 回目 講義(担当:奥山) 20 回目 講義(担当:船原)			
キーワード	口腔癌, 歯源性腫瘍, 非歯源性腫瘍, 非歯源性悪性腫瘍,		
教科書・教材・参考書	特に指定せず		
成績評価の方法・基準等	PBL での討議および発表を評価 60%, テスト(客観試験) 40%		
受講要件(履修条件)	規定の通り		
備考(学生へのメッセージ)	口腔腫瘍の診断・治療は大変重要な分野です。十分な学習をされることを期待します。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	木	I	PBL症例part1 シナリオの提示, 事実の抽出および仮説の設定	各ファシリテータ	各部屋
2回	4	6	木	II	PBL症例part1 仮説に基づいた学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	各部屋
3回	4	6	木	III	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
4回	4	6	木	IV	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
5回	4	6	木	V	PBL症例part1 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
6回	4	13	木	I	PBL症例part1 セッション	各ファシリテータ	各部屋
7回	4	13	木	II	PBL症例part2 シナリオの提示, 事実の抽出, 仮説, 学習課題の設定および分担	各ファシリテータ	各部屋
8回	4	13	木	III	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
9回	4	13	木	IV	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
10回	4	13	木	V	PBL症例part2 学習課題についてのレポート作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
11回	4	14	金	I	講義	柳本	講義室6B
12回	4	14	金	II	講義	鳴瀬	講義室6B
13回	4	14	金	III	講義	五月女	講義室6B
14回	4	20	木	I	PBL症例part2 セッション	各ファシリテータ	各部屋
15回	4	20	木	II	PBL自己評価および相互評価	各ファシリテータ	各部屋
16回	4	20	木	III	プレゼンテーション資料作成(自学自習)	各ファシリテータ	各部屋
17回	4	20	木	IV	プレゼンテーション	奥山	各部屋
18回	4	20	木	V	プレゼンテーション	奥山	各部屋
19回	5	17	水	III	講義	奥山	講義室6B
20回	5	17	水	IV	講義	船原	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 火・I.II.III.IV	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054607		
科目ナンバリング・コード	DNGD33301983		
授業科目名/(英語名)	口腔感染症及び免疫学/(Infected and Immune Disease in the Oral Region)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室	各部屋・講義室 6B
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井 隆司/i-takashi@nagasaki-u.ac.jp/顎口腔再生外科学分野教員室/095-819-7704(内 7704)/月曜 13:00~14:00			
担当教員(オムニバス科目等)	井 隆司 他		
授業の概要及び位置づけ			
<p>口腔領域に発生する感染症の概要、感染に対する生体の免疫システムの基本知識を理解し、習得する。口腔感染症の診断・治療の進め方を考え、感染防御に対する判断力を習得する。PBL方式を導入し、実際の症例を基に必要な検査・診断・治療法を学生自ら提示し、それを解決する意欲・態度を養い、知識・自主性を身につける。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1:細菌、真菌、ウイルスのヒトに対する感染の成立機序と病原性を説明できる。</li> <li>2:口腔領域の特異性炎の種類をあげ、説明できる。</li> <li>3:院内感染、日和見感染を説明できる。</li> <li>4:歯性感染の原因菌と感染経路を説明できる。</li> <li>5:診断に必要な検査法を説明できる。</li> <li>6:感染症に対する治療法を提示できる。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
主に PBL形式を採用し、一部講義形式で行う。シナリオに基づきグループごとに学生自らが問題を発見し、解釈、解決する自学・自習を基本とした学習形態を整える。学生が自学自習で得た知識を自ら確認できるように、シナリオに対しての解説を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 回目 シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担</li> <li>2 回目 問題点抽出、調査項目決定</li> <li>3 回目 各自調査、自習</li> <li>4 回目 各自調査、自習</li> <li>5 回目 まとめ、レポート提出</li> <li>6 回目 まとめ、レポート提出</li> <li>7 回目 シナリオ提示(症例1~7)、シナリオ把握、班内での各人の役割分担</li> <li>8 回目 問題点抽出、調査項目決定</li> <li>9 回目 症例1の検討・解説</li> <li>10 回目 症例2の検討・解説</li> <li>11 回目 症例3の検討・解説</li> <li>12 回目 症例4の検討・解説</li> <li>13 回目 症例5の検討・解説</li> <li>14 回目 症例6の検討・解説</li> <li>15 回目 症例7の検討・解説</li> </ol>			
キーワード	歯性感染症、抗菌薬、口腔粘膜疾患、ウイルス性疾患		
教科書・教材・参考書	口腔外科学 白砂兼光 他 医歯薬出版/標準口腔外科学 瀬戸皖一 他 医学書院/ 歯科における薬の使い方 デンタルダイヤモンド社		
成績評価の方法・基準等	発表、討論態度 50% レポート 50% 到達目標の理解度の評価		
受講要件(履修条件)	2/3以上の出席、授業中の態度、積極性		
備考(学生へのメッセージ)	これまでの講義で培った知識のアウトプットをすることで感染・免疫を主とした知識のブラッシュアップを図ります。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	火	I	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	各部屋
2回	4	4	火	II	問題抽出、調査項目決定	井	各部屋
3回	4	4	火	III	各自調査、自習	井	各部屋
4回	4	4	火	IV	各自調査、自習	井	各部屋
5回	4	11	火	I	まとめ、レポート提出	井	各部屋
6回	4	11	火	II	まとめ、レポート提出	井	各部屋
7回	7	6	木	I	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	講義室6B
8回	7	6	木	II	問題抽出、調査項目決定	井	講義室6B
9回	7	11	火	IV	症例1 検討・解説	井	講義室6B
10回	7	12	水	III	症例2 検討・解説	井	講義室6B
11回	7	12	水	IV	症例3 検討・解説	井	講義室6B
12回	7	18	火	III	症例4 検討・解説	井	講義室6B
13回	7	18	火	IV	症例5 検討・解説	井	講義室6B
14回	7	25	火	I	症例6 検討・解説	井	講義室6B
15回	7	25	火	II	症例7 検討・解説	井	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 月・火・木 I～V	必修選択 必修	単位数 (20)		
科目番号	25054608				
科目ナンバリング・コード	DNGD33311982				
授業科目名/(英語名)	硬組織科学/(Science of Hard Tissues)				
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 各部屋・講義室 6B			
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目				
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 伊藤公成/itok@nagasaki-u.ac.jp/A 棟7階分子硬組織生物学分野教授室/095-819-7487(内 7487)/12:00～13:00					
担当教員(オムニバ ス科目等)	ファシリテーター: 馬場友巳, 庄子幹郎, 森石武史, 北川賀一, 坂井詠子 講義: 坂井詠子, 藤田修一, 増山律子				
授業の概要及び位置づけ 臨床ケースの中で, 問題点を見出し, その解決策を見つける方法を理解すること。					
授業到達目標 1. 硬組織に関する疾病を説明できる。 2. 骨と歯の形態, 発生とその機構を説明できる。 3. 結合組織の有機成分の構造と機能を説明できる。 4. 骨と歯の分化機構, 骨吸収機構を説明できる。 5. 血清カルシウムの調節機構を説明できる。 6. ヒドロキシアパタイトの構造を説明できる。					
授業方法(学習指導法) 前半 PBL11回(自主学習を含む)。2つのシナリオについて演習形式で学習する。 後半 4回は講義を行う。					
授業内容					
No.	内容	月日	曜日	校時	担当者
1	自己紹介	7/4	火	I	馬場友巳 庄子幹郎 森石武史 北川賀一 坂井詠子
2	シナリオ 1 (資料配付, グループ討論, 問題抽出)			II	
3	自主学習			III	
4	レポート作成			IV	
5	シナリオ 1 (学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証)	7/10	月	I	
6				II	
7	シナリオ 2 (資料配付, グループ討論, 問題抽出)			III	
8				IV	
9	自主学習, レポート作成			V	
10	シナリオ 2 (学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証)	7/24	月	I	
11	まとめ, 評価			II	
12	講義: 代謝性骨疾患			III	増山律子
13	講義: 骨および歯に作用する薬物と治療薬	7/27	木	I	坂井詠子
14	講義: 骨と歯の病理学			II	藤田修一
15	総括			III	伊藤公成
キーワード	骨, 歯, コラーゲン, カルシウム, 破骨細胞, 骨芽細胞, ビタミンD				
教科書・教材・参考書	最新整形外科学体系 第21巻 骨系疾患・代謝系骨疾患 中村利孝, 吉川秀樹著 および 口腔生理学, 口腔生化学, 口腔病理学, 歯科薬理学(3-4年次専門科目)の教科書				
成績評価の方法・基準等	PBLは授業態度, 討議内容を各ファシリテーターが総合的に評価する(50点)。 講義に関しては試験を実施(50点)。これらを総合評価する。				
受講要件(履修条件)					
備考(学生へのメッセージ)	口腔生理学, 口腔生化学, 口腔病理学, 歯科薬理学(3-4年)教科書で復習しておくこと。				

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	7	4	火	I	自己紹介 シナリオ 1 (資料配付, グループ討論, 問題抽出)	馬場友巳 庄子幹郎 森石武史 北川賀一 坂井詠子	グループご とに各教室
2回	7	4	火	II			
3回	7	4	火	III	自主学習 レポート作成		
4回	7	4	火	IV			
5回	7	10	月	I	シナリオ 1 (学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証)		
6回	7	10	月	II			
7回	7	10	月	III	シナリオ 2 (資料配付, グループ討論, 問題抽出)		
8回	7	10	月	IV			
9回	7	10	月	V	自主学習 レポート作成		
10回	7	24	月	I	シナリオ 2 (学習結果発表, 情報の共有, グループ討論, 仮説検証)		
11回	7	24	月	II			
12回	7	24	月	III	講義: 代謝性骨疾患	増山律子	講義室6B
13回	7	27	木	I	講義: 骨および歯に作用する薬物と治療薬	坂井詠子	講義室6B
14回	7	27	木	II	講義: 骨と歯の病理学	藤田修一	講義室6B
15回	7	27	木	III	総括	伊藤公成	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054609		
科目ナンバリング・コード	DNNGD33321988		
授業科目名/(英語名)	成育歯学/(Pediatric and Orthodontic Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義	教室 PBL6 教室, 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp/歯科矯正学/819-7669, 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学/819-7672, 口腔保健学/819-7663, 不在時をのぞき 17:00 以降			
担当教員(オムニバス科目等)	講義担当—吉田教明, 藤原 卓, 日高 聖, 北村雅保, 嘉ノ海龍三(非常勤講師) PBL 担当—藤村裕治, 富永淳也, 森田幸子, 星野倫範, 日高 聖, 古堅麗子		
授業の概要及び位置づけ 4年次までに既に学習した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学などの基礎知識を学生自ら総合的に再構築し, 成育歯学としてこどものライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理ができるように検査, 診断, 治療, メンテナンスについて総合的理解を深める。			
授業到達目標 (1) 自ら問題を発見し, その問題解決のため積極的に行動し結果を説明できる。 (2) ライフサイクルに応じた口腔保健管理, 咬合管理の重要性が理解できる。 (3) 正常な発生, 成長発育および加齢による形態的・機能的特徴が説明できる。 (4) 成長発育の異常や不正咬合の種類, 原因および予防法が列挙できる。 (5) 成長発育の異常や不正咬合の治療の必要性, 適切な治療開始時期, 予後を説明できる。 (6) 成長発育の異常や不正咬合の検査, 診断, 治療計画, 治療法が説明できる。 (7) 矯正治療による医原性障害とその処置と予防を説明できる。 (8) 唇顎口蓋裂, 先天異常, 顎変形症に対する診断, 管理, 治療の流れが説明できる。			
授業方法(学習指導法) PBL チュートリアル形式(15回)と講義形式(5回)合計 20回実施。			
授業内容 (概要)15回はシナリオを使つてのPBL形式の授業を行い, 5回は講義形式の授業を行う。 講義は「成育歯科」のPBL型授業を通して, 学生自らが顎顔面口腔領域におけるこどもの成長発育に関する知識を統合させ, ライフスタイルに応じた口腔保健管理, 咬合管理について学習したことをベースに, より専門性の高い知識を提供することを目的とする。 (内容) 1回目 PBL チュートリアルケース1 2回目 PBL チュートリアルケース1 3回目 ケース1自学自習 4回目 ケース1自学自習 5回目 ケース1自学自習 6回目 講義1 「先天性疾患と唇顎口蓋裂の診断・管理・治療」 日高 聖 7回目 PBL チュートリアルケース1セッション 8回目 PBL チュートリアルケース2 9回目 ケース2 自学自習 10回目 ケース2 自学自習 11回目 ケース2 自学自習 12回目 講義2 「う蝕予防のためのプロフェッショナル・ケアとホーム・ケア」 北村雅保 13回目 PBL チュートリアルケース2セッション 14回目 ケース1, 2 学習後の自己・相互評価 15回目 プレゼンテーション資料作成自学自習 16回目 プレゼンテーション(グループごとに) 17回目 プレゼンテーション(グループごとに) 18回目 講義3 「ライフサイクルに応じた口腔保健管理・咬合管理」 藤原 卓 19回目 講義4 「不正咬合の成り立ち」 吉田教明 20回目 講義5 「成長期の矯正治療」 嘉ノ海龍三			
キーワード	ライフサイクル, 発生, 成長発育, う蝕, 歯髄炎, 不正咬合, 原因, 予防, 診断, 治療		
教科書・教材・参考書	口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学で掲載しているもの		
成績評価の方法・基準等	PBL形式授業は出席, 態度, 討議内容, 自学自習の結果の発表などを各担当のファシリテータが総合的に評価。定期考査は, 本試験, 再試験とする。点数の配点は, 時間数に応じてPBL評価と定期試験とで総合評価し 60 点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	特になし		
備考(学生へのメッセージ)	ライフサイクルを考慮した口腔保健学, 歯科矯正学, 小児歯科学についての自己学習は必須。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	水	I	PBLチュートリアルケース1	教員6名	6教室
2回	4	5	水	II	PBLチュートリアルケース1	教員6名	6教室
3回	4	5	水	III	ケース1自学自習	教員6名	6教室
4回	4	5	水	IV	ケース1自学自習	教員6名	6教室
5回	4	5	水	V	ケース1自学自習	教員6名	6教室
6回	4	10	月	III	講義1 リソースセッション 「先天性疾患と唇顎口蓋裂の診断・管理・治療」	日高	講義室6B
7回	4	12	水	I	PBLチュートリアルケース1セッション	教員6名	6教室
8回	4	12	水	II	PBLチュートリアルケース2	教員6名	6教室
9回	4	12	水	III	ケース2自学自習	教員6名	6教室
10回	4	12	水	IV	ケース2自学自習	教員6名	6教室
11回	4	12	水	V	ケース2自学自習	教員6名	6教室
12回	4	17	月	III	講義2 リソースセッション 「う蝕予防のためのプロフェッショナル・ケアとホーム・ケア」	北村	講義室6B
13回	4	19	水	I	PBLチュートリアルケース2セッション	教員6名	6教室
14回	4	19	水	II	ケース1, 2学習後の自己・相互評価	教員6名	6教室
15回	4	19	水	III	プレゼンテーション資料作成自学自習	教員6名	6教室
16回	4	19	水	IV	プレゼンテーション(グループごとに)	教員6名	講義室6B
17回	4	19	水	V	プレゼンテーション(グループごとに)	教員6名	講義室6B
18回	6	7	水	V	講義3 リソースセッション 「ライフサイクルに応じた口腔保健管理・咬合管理」	藤原	講義室6B
19回	6	12	月	V	講義4 リソースセッション 「不正咬合の成り立ち」	吉田	講義室6B
20回	7	13	木	V	講義5 リソースセッション 「成長期の矯正治療」	嘉ノ海	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054610		
科目ナンバリング・コード	DNGD33331982		
授業科目名/(英語名)	臨床薬理学/(Clinical Pharmacology)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 指定された部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 坂井詠子/eiko-s@nagasaki-u.ac.jp/A棟5階歯科薬理学研修室/095-819-7654(内7654)/17:00~18:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	PBL: 西下一久 他 講義: 鮎瀬卓郎		
授業の概要及び位置づけ			
PBL形式により、臨床で用いる薬剤に関する題材の中で、他者とのコミュニケーションを取りながら問題点を指摘し、それに対する解決策を見つけたす方法を身につける。			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題シナリオから発想や連想ができる。</li> <li>2. シナリオから重要な項目を抽出できる。</li> <li>3. 理論的に分析し、仮説の設定・検証ができる。</li> <li>4. 学習項目に応じた情報収集ができる。</li> <li>5. 調べてきた内容をわかりやすく発表できる。</li> <li>6. 他者の考えを尊重し理解できる。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
7名くらいのグループに分かれて PBL 方式をとる。シナリオを読み、それに対して討論を行いながら問題点を指摘し、仮説を設定する。その仮説に対して検証を行うための学習項目について調べ発表を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 2 回目 グループセッション: グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。</li> <li>3, 4, 5 回目 自主学习: 各自学習項目について調べる。</li> <li>6 回目 グループディスカッション: 調べてきた学習項目について発表を行い、前回たてた仮説を検証する。また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。</li> <li>7 回目 まとめ及び評価: まとめ及び自己・他者評価。</li> <li>8 回目 講義: 救急時の対処法及び薬物の使用法</li> </ol>			
キーワード	薬物, バイタルサイン, 救急治療薬, PBL		
教科書・教材・参考書	今まで用いてきた教科書およびノート		
成績評価の方法・基準等	ファシリテーターによる学生の評価(40%)と定期テスト(60%)により判定します。 定期テストは国家試験形式で薬理学全般から出題します。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	事前に勉強することはありませんが、進行方法等しっかりと頭に入れて臨み、積極的に発言等行ってください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	7	21	金	I	グループセッション： グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	坂井, 他	掲 示
2回	7	21	金	II	グループセッション： グループごとに課題シナリオから重要な項目を抽出し、仮説を設定する。また、それを検証するための学習項目を設定する。	坂井, 他	掲 示
3回	7	21	金	III	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井, 他	掲 示
4回	7	21	金	IV	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井, 他	掲 示
5回	7	21	金	V	自主学習： 課題に対する学習項目について各自調べる。	坂井, 他	掲 示
6回	7	28	金	I	グループディスカッション： 調べてきた学習項目について発表を行い、前回立てた仮説を検証する。また、ディスカッション中に出された曖昧なアイデアを認識し、それを解明する。	坂井, 他	掲 示
7回	7	28	金	II	まとめおよび評価： まとめおよび自己・他者の評価	坂井, 他	掲 示
8回	7	28	金	III	緊急時の対処法： 緊急時に必要な処置、および薬物に関する知識を講義する。	鮎 瀬	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054622		
科目ナンバリング・コード	DNGD33341990		
授業科目名/(英語名)	口腔顔面疼痛学/(Orofacial Pain)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL・講義形式	教室 各部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階歯科麻酔学分野/095-819-7714(内 7714)/随時			
担当教員(オムニバ ス科目等)	境 徹也(麻酔科), 今村 明(精神神経科), 黒滝直弘(精神神経科), 和気裕之(非常勤講師), 戸田一雄(非常勤講師), 岡安一郎, 鮎瀬卓郎		
授業の概要及び位置づけ			
歯科が対象とする難治性の慢性の痛みである口腔顔面痛, 歯科心身症について, 体系的に学ぶことができる.			
授業到達目標			
1. 口腔顔面痛, 歯科心身症の病態生理について理解する. 2. 口腔顔面痛, 歯科心身症に必要な口腔医学, 心身医学, 精神医学の知識とスキルについて理解する.			
授業方法(学習指導法)			
PBL, 講義及び自己学習とする.			
授業内容			
1 回目: 「痛みの基礎と臨床」担当 境 徹也 2 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理を PBL 形式で学習 (ケースプレゼン) 担当 チューター 3 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理を PBL 形式で学習 (ケースプレゼン) 担当 チューター 4 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理を PBL 形式で学習 (自習) 担当 チューター 5 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理を PBL 形式で学習 (自習) 担当 チューター 6 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理を PBL 形式で学習 (自習) 担当 チューター 7 回目: 「歯科診療に必要な心身医学」担当 和気裕之 8 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理を PBL 形式で学習 (ケースセッション) 担当 チューター 9 回目: 口腔顔面痛の評価・診断・管理を PBL 形式で学習 (自己相互評価) 担当 チューター 10 回目: 「心身歯科」担当 今村 明 11 回目: 「心身症と精神医学」担当 黒滝直弘 12 回目: 「痛みの生理学」担当 戸田一雄			
キーワード	口腔顔面痛, 歯科心身症, 口腔医学, 心身医学, 精神医学, 医療連携		
教科書・教材・参考書	1) 和気裕之, 澁谷智明, 目加田まり. デンタルスタッフのための歯科心身症ガイドブック. 医歯薬出版, 東京, 2015. 2) 和気裕之. サイコ・デンティストリー 歯科医のための心身医学・精神医学 第二版. 砂書房, 東京, 2015. 3) 和気裕之, 玉置勝司, 宮岡等. ロ・あご・顔の痛みと違和感の対処法-原因がはっきりしないケースで困ったら. ヒョーロン, 東京, 2013. 4) 木野孔司, 杉崎正志, 和気裕之. 新・顎関節症はこわくない. 砂書房, 東京, 2011. 5) 植田弘師, 戸田一雄. やさしい痛み学. プレーン出版, 東京, 2007.		
成績評価の方法・基準等	出席率, 授業中の態度, PBL への積極的取り組みを重視.		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	2012 年 3 月, 「長崎大学病院オーラルペイン・リエゾン外来」が開設されて以来, 口腔顔面痛および歯科心身症の評価と管理は, 歯科と医科との緊密な医療連携(リエゾン診療を含む)の下で行われている. 一連の講義を通して, 口腔顔面痛と歯科心身症に対する理解を深めて欲しい.		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	6	火	IV	痛みの基礎と臨床	境 徹也	講義室6B
2回	7	7	金	I	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
3回	7	7	金	II	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
4回	7	7	金	III	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習)	チューター	未定
5回	7	7	金	IV	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顎顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習)	チューター	未定
6回	7	7	金	V	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自習)	チューター	未定
7回	7	13	木	IV	歯科診療に必要な心身医学	和気裕之	講義室6B
8回	7	14	金	I	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (PBLケースセッション)	チューター	未定
9回	7	14	金	II	口腔顔面疼痛学PBL 口腔顔面痛の評価・診断・管理をPBL形式で学習 (自己・相互評価)	チューター	未定
10回	7	14	金	III	心身歯科	今村 明	講義室6B
11回	7	19	水	III	心身症と精神医学	黒滝直弘	講義室6B
12回	7	19	水	IV	痛みの生理学	戸田一雄	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 月・I～V	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054612		
科目ナンバリング・コード	DNGD33351987		
授業科目名/(英語名)	臨床検査学/(Clinical laboratory Science)		
対象年次 5年次	講義形態 PBL形式	教室 各部屋	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 井 隆司/i-takashi@nagasaki-u.ac.jp/顎口腔再生外科学分野教員室/095-819-7704(内 7704)/月曜 13:00～14:00			
担当教員(オムニバ ス科目等)	井 隆司 他		
授業の概要及び位置づけ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次までに既習した個々の基礎および臨床の知識を元に、患者に即した検査学を学生自らが学んだ知識で総合的に再構築し、治療計画に応じた口腔外科的診療のための理解を深めることを目標とする。</li> <li>・PBL形式を導入し、学生自ら問題を提起し、それを解決する方法を養う。</li> </ul>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。</li> <li>2. 歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。</li> <li>3. 診察、検査、診断および治療に必要な器材を準備できる。</li> <li>4. 各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。</li> <li>5. 各検査値から患者の病態を理解し、最適な治療法を自ら計画できる力を身に付ける。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
主に PBL形式を採用し、一部講義形式で行う。シナリオに基づきグループごとに学生自らが問題を発見、解釈、解決する自学・自習を基本とした学習形態を整える。学生が自学自習で得た知識を自ら確認できるようにシナリオに対しての解説を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 回目:PBL ケース 1</li> <li>2 回目:PBL ケース 1</li> <li>3 回目:自主学習</li> <li>4 回目:自主学習</li> <li>5 回目:自主学習</li> <li>6 回目:発表・討論</li> <li>7 回目:レポート提出、まとめ</li> </ol>			
キーワード	感染・免疫、抗菌薬、臨床検査		
教科書・教材・参考書	口腔外科学 白砂兼光 他 医歯薬出版/標準口腔外科学 瀬戸皖一 他 医学書院/ 歯科における薬の使い方 デンタルダイヤモンド社		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート 50%、発表・討論態度 50%</li> <li>・到達目標の理解度で評価する。</li> </ul>		
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況、各グループでの討論様式や解決過程での文章構成力や表現力、討論会でのオリジナリティを重視します。		
備考(学生へのメッセージ)	これまでの講義で培った知識のアウトプットをすることで感染・免疫を主とした知識のブラッシュアップを図ります。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	8	木	I	シナリオ提示、シナリオ把握、班内での各人の役割分担	井	各部屋
2回	6	8	木	II	問題抽出、調査項目決定	井	各部屋
3回	6	8	木	III	各自調査、自習	井	各部屋
4回	6	8	木	IV	各自調査、自習	井	各部屋
5回	6	8	木	V	各自調査、自習	井	各部屋
6回	6	13	火	III	まとめ、レポート提出	井	各部屋
7回	6	13	火	IV	まとめ、レポート提出	井	各部屋

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054613		
科目ナンバリング・コード	DNGD33361991		
授業科目名/(英語名)	医療面接/(Medical Interview)		
対象年次 5年次	講義形態 講義・実習形式	教室 各部屋・講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	角 忠輝, 久保至誠, 林田秀明, 鎌田幸治, 木村泰男, 多田浩晃 他協力教員 非常勤講師: 俣木志朗(東京医科歯科大学教授), 野中愛恵(九州大学特別研究員)		
授業の概要及び位置づけ			
歯科疾患を抱える患者を全身的・全人的に捉える態度および問題解決志向に対する理解を深める。患者との良好な人間関係の構築するために必要なコミュニケーションに関する知識, 態度, 技術を身に付ける。さらに, 歯科医師としての人格を涵養する。			
授業到達目標			
信頼関係を構築するためのコミュニケーションの条件を説明できる。患者の社会的・心理的背景を考慮しつつ, 正確かつ必要十分な医療面接ができる。歯科医師として, あるべき姿を理解する。患者の権利を理解する。			
授業方法(学習指導法)			
プリントとスライドを用いた講義, SGD 形式の学習, 模擬患者に対する医療面接実習およびビデオ学習。 はじめに, 医療面接に関する基礎知識とコミュニケーションの基本的技法を講義により学習する。次いで, 小グループ実習と模擬患者を用いたロールプレイ実習を行い, 形成的評価を繰返し受けることによって医療面接についての基本的態度, 技能および知識を修得する。さらに, 医療に携わる者としての人格の涵養に望ましい姿勢と態度を考える。			
授業内容			
1 回目: 医療面接の目的と総論 2 回目: 医療行動科学講義(医療過誤, 医療事故) 3 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 1 4 回目: 医療コミュニケーションをとるための技法 2 5 回目: プロフェッショナリズム概論および演習 1 6 回目: プロフェッショナリズム概論および演習 2 7 回目: 医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療開始・診療中・診療後) 8 回目: 小グループ実習 医療面接実習評価シート作成 プロダクト(医療面接実習評価シート)発表・討議 9 回目: ロールプレイ実習 1 (面接/評価トライアル) 10 回目: SP シミュレーション実習 1 (初診時医療面接) 11 回目: ロールプレイ実習 2 (面接/評価トライアル) 12 回目: SP シミュレーション実習 2 (初診時医療面接) 13 回目: 医療行動学演習(試験) 14 回目: グローバルコミュニケーション			
キーワード	コミュニケーション、敬語、医療行動科学		
教科書・教材・参考書	教科書: 特に指定しない 参考書: 医療面接技法とコミュニケーションのとり方 (新・基礎臨床技能シリーズ) メジカルビュー社 医師のためのパフォーマンス学入門 日経 BP 社 話を聞かない医師 思いが言えない患者 集英社		
成績評価の方法・基準等	医療行動科学は第 13 回目の授業中に筆記試験で評価する。医療面接実習は, 学生の相互評価, 模擬患者の評価および観察記録によって評価する。これらの平均点 60 点を合格とする。		
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。また, 実習は必ず出席しなければならない。		
備考(学生へのメッセージ)	他人の言葉から, 必要な情報を引き出すことを学びます。人に心を開いてもらえるよう, 言葉遣いだけでなく, 表情, 身だしなみにいたるまで, 自分を磨いてください。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	12	金	III	医療面接の目的と総論	角	講義室6B
2回	5	12	金	IV	医療行動科学講義(医療過誤, 医療事故)	久保	講義室6B
3回	5	18	木	III	医療コミュニケーションをとるための技法 1	俣木/ 角	講義室6B
4回	5	18	木	IV	医療コミュニケーションをとるための技法 2	俣木/ 角	講義室6B
5回	5	19	金	III	プロフェッショナリズム概論および演習1	角	講義室6B
6回	5	19	金	IV	プロフェッショナリズム概論および演習2	角	講義室6B
7回	5	26	金	III	医療行動科学演習 (ビデオ学習; 診療開始・診療中・診療後)	多田	講義室6B
8回	5	26	金	IV	小グループ実習 医療面接実習評価シート作成 プロダクト(医療面接実習評価シート) 発表・討議	木村	講義室6B
9回	5	31	水	III	ロールプレイ実習1 (面接/評価トライアル)	教員6	6教室
10回	5	31	水	IV	SPシミュレーション実習1 (初診時医療面接)	教員6	6教室
11回	6	9	金	III	ロールプレイ実習2 (面接/評価トライアル)	教員6	6教室
12回	6	9	金	IV	SPシミュレーション実習2 (初診時医療面接)	教員6	6教室
13回	6	9	金	V	医療行動学演習(試験)	角	講義室6B
14回	7	14	金	V	グローバルコミュニケーション	野中/ 角	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 月、木、金曜日 3、4校時	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054615		
科目ナンバリング・コード	DNGD33371941		
授業科目名/(英語名)	歯科臨床東洋医学/(Oriental medicine for clinical dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔学医局/095-819-7714(内 7714)/随時			
担当教員(オムニバ ス科目等)	鮎瀬卓郎、戸田一雄(非常勤講師)、田頭澄人(非常勤講師)、金子篤(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>東洋医学では、人は大自然(大宇宙)のなかの一つで、自然界のすべてのものと、お互いに関連し、影響しあっているとみなしている。西洋医学では、組織、器官はそれぞれ独立して異なるものとするが、東洋医学では、異なった機能を持ちながらも全体として有機的につながりをもった共有体とされている。その根底となる思想が陰陽論と五行論である。このような東洋医学の理論的背景を認識しつつ実際の東洋医学的治療法の主な方法を、体験を通して学習する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.東洋医学を実際の治療方法として歯科臨床に応用できる能力を養う。</li> <li>2.東洋医学的診断法を理解・習得する。</li> <li>3.鍼治療の臨床応用を理解・習得する。</li> <li>4.灸療法の臨床応用を理解・習得する。</li> <li>5.漢方処方を理解する東洋医学の歯科臨床における応用法を実践できる。</li> <li>6.基礎編で得た知識を実際の臨床で応用できる。</li> <li>7.東洋医学の手技・手法を説明できる。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
実習を併用して学習する。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1回目 臨床東洋医学総論、あはき法 I 戸田</li> <li>2回目 古法、脈診 II 戸田</li> <li>3回目 刺鍼法 田頭</li> <li>4回目 灸法総論 田頭</li> <li>5回目 漢方薬の処方の筆才(実習) 鮎瀬</li> <li>6回目 歯科灸法(実習を含む) 田頭</li> <li>7回目 漢方最前線(全学公開講座) 金子</li> </ol>			
キーワード	経穴、鍼、灸、漢方		
教科書・教材・参考書	教科書 入門歯科東洋医学、口腔保健協会、日本歯科東洋医学会編 参考書 1.漢方医学 創元社 大塚敬節 著 2.漢方薬の正しい使い方と漢方療法のすべて 池田書店 丁 宗鉄 著 3.臨床経穴図 医道の日本社 木下晴都 著		
成績評価の方法・基準等	定期考査またはレポート100%		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	講義日程が複雑なので注意すること。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	7	3	月	III	臨床東洋医学総論、あはき法	戸田	講義室6B
2回	7	3	月	IV	古法、脈診	戸田	講義室6B
3回	7	6	木	III	刺鍼法(実習を含む)	田頭	講義室6B
4回	7	6	木	IV	灸法総論(実習を含む)	田頭	講義室6B
5回	7	13	木	III	漢方薬の処方の実際(実習)	鮎瀬	講義室6B
6回	7	14	金	IV	歯科灸法(自習を含む)	田頭	講義室6B
7回	7	20	木	III	漢方最前線(全学公開講座)	金子	講義室6B
8回	7	20	金	IV	予備		講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 水. 木・Ⅲ.IV.V	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054616		
科目ナンバリング・コード	DNGD33381990		
授業科目名/(英語名)	摂食嚥下リハビリテーション学/(Dysphagia Rehabilitation)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 久松徳子/norinori@nagasaki-u.ac.jp/特殊歯科総合治療部/095-819-7717/事前に連絡を			
担当教員(オムニバ ス科目等)	久松徳子, 釜崎陽子, 三串伸哉, 坂口功一(長崎大学病院), 長田 豊(非常勤講師), 久保田一見(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>摂食嚥下機能は、食物を認識し口腔に運び込み、咀嚼・嚥下動作にて食道へ食物を送り込む一連の機能であり、経口より栄養を確保するための重要な機能である。また疾患の早期回復には良好な栄養状態の維持が必要であるため、近年では経口摂取の重要性が再認識されている。このため、安全で円滑な経口摂取を行うためには多職種におけるチームアプローチが必要であり、多方面から摂食嚥下機能を理解し、障害の改善に向けた対応について学ぶ。摂食嚥下障害に関する知識の習得や安全で円滑な経口摂取の対応方法の習得を目指す。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食嚥下機能に関して説明できる。</li> <li>2. 摂食嚥下障害の原因、評価、診断について説明できる。</li> <li>3. 摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる。</li> <li>4. 小児の摂食嚥下障害に関して説明できる。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
講義形式で行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 回目 摂食嚥下リハビリテーション総論, 各器官の解剖・生理</li> <li>2 回目 摂食嚥下障害の原因・病態</li> <li>3 回目 小児の摂食嚥下障害(総論)</li> <li>4 回目 小児の摂食嚥下障害(各論)</li> <li>5 回目 摂食嚥下障害の診査・診断</li> <li>6 回目 摂食嚥下障害に対する訓練法 I</li> <li>7 回目 摂食嚥下障害に対する訓練法 II</li> <li>8 回目 摂食嚥下障害における口腔ケア</li> <li>9 回目 摂食嚥下障害の外科的治療</li> <li>10 回目 口腔保健センターにおける摂食嚥下障害への取り組み</li> <li>11 回目 摂食嚥下障害における訪問診療</li> <li>12 回目 摂食嚥下障害における栄養</li> <li>13 回目 摂食嚥下障害における NST の役割</li> <li>14 回目 摂食嚥下障害における歯科的アプローチ</li> <li>15 回目 摂食嚥下障害におけるリスクマネジメント</li> </ol>			
キーワード	摂食嚥下障害 リハビリテーション, 経口摂取, 口腔ケア		
教科書・教材・参考書	参考書 摂食嚥下リハビリテーション第3版 (医歯薬出版) 嚥下障害ポケットマニュアル第3版 (医歯薬出版) 動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション (中山書店) 摂食・嚥下のメカニズム第2版 (医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期試験での評価を行う。 出席, 追試験, 再試験等は学部規定に従う。		
受講要件(履修条件)	学部規定に従う。		
備考(学生へのメッセージ)	基礎的知識や医科的内容も含まれ、自身や身近な人に関する事、死に直結することでもある。これからの人生や社会構造・情勢等も念頭に置きながら受講すると身近なこととして受け止めやすいと思われます。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	27	木	Ⅲ	摂食嚥下リハビリテーション総論 各器官の解剖・生理	久松	講義室6B
2回	4	27	木	Ⅳ	摂食嚥下障害の原因・病態	久松	講義室6B
3回	4	27	木	Ⅴ	小児の摂食嚥下障害(総論)	久保田	講義室6B
4回	5	10	水	Ⅴ	小児の摂食嚥下障害(各論)	釜崎	講義室6B
5回	5	11	木	Ⅲ	摂食嚥下障害の診査・診断	久松	講義室6B
6回	5	11	木	Ⅳ	摂食嚥下障害に対する訓練法Ⅰ	久松	講義室6B
7回	5	11	木	Ⅴ	摂食嚥下障害に対する訓練法Ⅱ	久松	講義室6B
8回	5	17	水	Ⅴ	摂食嚥下障害における口腔ケア	久松	講義室6B
9回	5	18	木	Ⅴ	口腔保健センターにおける摂食嚥下障害への取り組み	長田	講義室6B
10回	5	24	水	Ⅲ	摂食嚥下障害の外科的治療	坂口	講義室6B
11回	5	24	水	Ⅳ	摂食嚥下障害における訪問診療	三串	講義室6B
12回	5	25	木	Ⅲ	摂食嚥下障害における栄養	久松	講義室6B
13回	5	25	木	Ⅳ	摂食嚥下障害におけるNSTの役割	久松	講義室6B
14回	5	25	木	Ⅴ	摂食嚥下障害における歯科的アプローチ	久松	講義室6B
15回	5	31	水	Ⅴ	摂食嚥下障害におけるリスクマネジメント	久松	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054617		
科目ナンバリング・コード	DNGD33391986		
授業科目名/(英語名)	口腔インプラント学/(Oral Inplantology)		
対象年次 5年次	講義形態 講義、実習	教室 講義室 6B, 臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/口腔インプラント学教授室/095-819-7685(内 7685)/毎日 8:00~8:50, 12:10~13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	澤瀬 隆, 朝比奈泉, 黒嶋伸一郎, 大場誠悟, 尾立哲郎, 中谷佑哉, 他教員, TA 非常勤講師: 柴原清隆, 十河基文, 今本道也, 武田孝之, 堀内克啓		
授業の概要及び位置づけ/授業到達目標/授業方法(学習指導法) (500 文字) 概要及び位置づけ: 一般目標(GIO)は、「患者に対し口腔インプラント治療について正しく説明するために、必要な基礎知識と態度を習得する」とする。実際のインプラント臨床手技の修得には卒業教育が不可欠であるが、インプラントに触れる最初の機会として、ニュートラルでかつ正しい知識の習得を到達目標とする。 行動目標(SBOs) ① インプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 ② インプラント治療の基礎科学を説明する ③ デンタルインプラントの治療計画、治療手順を説明できる。 ④ インプラントに必要な診察と検査を説明できる。 ⑤ インプラント治療の外科手技、補綴手技について説明できる。 ⑥ インプラント治療のメンテナンスの意義と合併症について説明できる。 授業方法: 口腔インプラント学は歯科臨床の集学的科目といわれ、4年生までに履修するほとんど全ての科目がベースとなっている。授業形態は各科専門医からのオムニバス形式とし、講義による必要な知識の解説に加え、外科系補綴系の実習によりインプラント特有の器具やその操作法を実習し、より具体的な理解の助けとする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字) 概要: 11 回のオムニバス形式の講義に加え、術前治療計画、外科、補綴のインプラント実習を行う。 モデルコアカリキュラム: E-3-4-(3) デンタルインプラント ① デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。⑤ 埋入方法を説明できる。 ② デンタルインプラントの治療計画、治療手順を説明できる。⑥ デンタルインプラントの上部構造について説明できる。 ③ デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。 ④ デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。⑦ メンテナンスの重要性を説明できる。			
授業内容	モデルコアカリキュラム該当項目		
1 回目: インプラントの種類, 特徴, 目的, 意義, オッセオインテグレーション	E-3-4)-(3)①		
2 回目: インプラントの基本構造, 成功率, 生存率	E-3-4)-(3)②		
3 回目: インプラントのための解剖学, 組織学	E-3-4)-(3)①		
4 回目: インプラント画像検査	E-3-4)-(3)③		
5 回目: インプラントに必要な診察と検査, 治療計画…	E-3-4)-(3)③, ④		
6 回目: インプラント外科術式・関連外科術式 1	E-3-4)-(3)⑤		
7 回目: インプラント外科術式・関連外科術式 2	E-3-4)-(3)⑤		
8 回目: インプラント補綴術式 1	E-3-4)-(3)⑥		
9 回目: インプラント補綴術式 2	E-3-4)-(3)⑥		
10 回目: 包括歯科治療の中におけるインプラント治療の位置づけ	E-3-4)-(3)①		
11 回目: インプラント周囲炎, 合併症	E-3-4)-(3)④⑦		
12 回目: インプラントシミュレーション実習	E-3-4)-(3)②		
13, 14 回目: インプラント補綴模型実習	E-3-4)-(3)⑥		
15, 16 回目: インプラント外科模型実習	E-3-4)-(3)⑤		
キーワード			
教科書・教材・参考書	敬第3版よくわかる口腔インプラント学(医歯薬出版) ◎エッセンシャル 口腔インプラント学(医歯薬出版) ◎インプラント治療の骨造成法(医学情報社)		
成績評価の方法・基準等	定期考査の60点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	講義の2/3, 実習は3回とも出席が試験の受験要件である。		
備考(学生へのメッセージ)	授業時間だけでは、消化しきれない内容が含まれているので予め教科書を読んでおき、1年間、欠かさず出席してほしい。そのためには規則正しい生活を送り、体調を常に整えて置く必要がある。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	10	月	I	インプラントの種類, 特徴, 目的, 意義, オッセオインテグレーション	澤瀬	講義室6B
2回	4	10	月	II	インプラントの基本構造, 成功率, 生存率	澤瀬	講義室6B
3回	4	17	月	I	インプラントのための解剖学, 組織学	古賀	講義室6B
4回	4	17	月	II	インプラント画像検査	十河	講義室6B
5回	4	18	火	I	インプラントに必要な診察と検査, 治療計画…	澤瀬	講義室6B
6回	4	18	火	II	インプラント外科術式・関連外科術式1	朝比奈	講義室6B
7回	4	24	月	II	インプラント外科術式・関連外科術式2	朝比奈	講義室6B
8回	4	24	月	III	インプラント補綴術式1	澤瀬	講義室6B
9回	4	25	火	I	インプラント補綴術式2	澤瀬	講義室6B
10回	4	25	火	II	包括歯科治療の中におけるインプラント治療の位置づけ	米澤	講義室6B
11回	5	1	月	I	インプラント周囲炎, 合併症	柴原	講義室6B
12回	5	1	月	II	インプラントシミュレーション実習	尾立 柴原	講義室6B
13回	5	2	火	I	インプラント補綴模型実習	尾立他	臨床実習室4B
14回	5	2	火	II	インプラント補綴模型実習	尾立他	臨床実習室4B
15回	5	9	火	I	インプラント外科模型実習	朝比奈 柴原 堀内他	臨床実習室4B
16回	5	9	火	II	インプラント外科模型実習	朝比奈 柴原 堀内他	臨床実習室4B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 日程表を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
授業コード	25054618		
授業科目/(英語名)	睡眠障害と疾患/Sleep related breathing Disorder		
対象年次 5年次	講義形態 講義, 実習	教室 講義室 2 他	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎: ayuse@nagasaki-u.ac.jp 大学病院8F 歯科麻酔科医局 tel:819-7714 オフィスアワー 随時			
担当教員(オムニバス科目等)	鮎瀬卓郎, 中村渉, 柳本惣市, 篠原一之(長崎大学第二生理), 内村直尚(久留米大学医学部), 加藤隆史(大阪大学), 江崎和久(久留米大学医学部)		
授業の概要及び位置づけ/授業到達目標/授業方法(学習指導法) (500 文字)			
一般目標			
・睡眠障害が関連する歯科的疾患の病態と治療方法を理解する。			
到達目標			
・睡眠に関する基礎的な事項を理解できる。			
・睡眠時無呼吸症候群の病態を理解し, 治療法を理解する。			
・睡眠時のブラキシズムの病態を理解し, 治療法を理解する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)			
概要			
睡眠障害が引き起こす, さまざまな歯科的な疾患の病態を理解し, 歯科的な治療法を用いる場合の, 臨床的な注意点を学習する。そのために, 睡眠に関する生理学的な機能を理解する。また, 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療方法の実際を, 実習を通して勉強する。スライドを中心に, プリントの配付と板書を使用する。PBL 形式で病態の理解を深めた後, 5回の講義で, さらに詳しい病態と長崎大学での治療の実際を学ぶ。			
授業内容			
講義・実習			
1 回目(6/5): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療を PBL 形式で学習(ケースプレゼン) 担当 チューター			
2 回目(6/5): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療を PBL 形式で学習(ケースプレゼン) 担当 チューター			
3 回目(6/5): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療を PBL 形式で学習(自習) 担当 チューター			
4 回目(6/5): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療を PBL 形式で学習(自習) 担当 チューター			
5 回目(6/5): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療を PBL 形式で学習(自習) 担当 チューター			
6 回目(6/13): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療を PBL 形式で学習(ケースセッション) 担当 チューター			
7 回目(6/13): 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療を PBL 形式で学習(自己相互評価) 担当 チューター			
講義			
8 回目(7/3): 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法 (歯科的な治療方法について) 担当 江崎			
9 回目(7/3): 睡眠時ブラキシズムの病態 (睡眠時ブラキシズムの病態生理について) 担当 加藤			
10 回目(7/6): サーカディアンリズムと睡眠調節機構の最新知見, “Timing is Everything” 担当 中村			
11 回目(7/20): 睡眠学概論(自然睡眠の生理学的な役割と睡眠障害の病態生理について) 担当 篠原			
12 回目(7/20): 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療法 (医科的な治療方法について) 担当 内村			
13 回目(7/24): 閉塞型睡眠時無呼吸の長崎大学での歯科的治療の診断・治療上の注意点を学ぶ 担当 柳本			
14 回目 定期考査			
キーワード	閉塞型睡眠時無呼吸症候群, 上気道, 麻酔		
教科書・教材・参考書	1. 一般医のための睡眠臨床ガイドブック 菱川泰夫 監修 医学書院 2. 図解雑学 睡眠のしくみ 鳥居鎮夫 監修 ナツメ社 3. 睡眠のメカニズム 井上昌次郎 編 朝倉書店 4. ヒトはなぜ眠るのか 井上昌次郎 編 筑摩書房 5. 危険ないびきが生活習慣病を招く! 鈴木俊介, 小学館文庫 6. 意外とこわい睡眠時無呼吸症候群 成井浩司 講談社 7. NHK スペシャル 病の起源 NHK出版		
成績評価の方法・基準等	出席率, 授業中の態度・積極的取り組みを重視。PBL への積極的取り組み, 最終日の試験の結果により成績評価を行う。追試験, 再試験は学部規則に沿って厳格に行う。		
受講要件(履修条件)	既に学習した基礎科目の知識を基盤とした臨床科目という観点から捉える必要がある。従って, 疑問を感じた場合は, 随時・適宜基礎科目の復習が必要となる。		
備考(学生へのメッセージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	5	月	I	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
2回	6	5	月	II	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (PBLケースプレゼン)	チューター	未定
3回	6	5	月	III	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自習)	チューター	未定
4回	6	5	月	IV	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自習)	チューター	未定
5回	6	5	月	V	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自習)	チューター	未定
6回	6	13	火	I	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (PBLケースセッション)	チューター	未定
7回	6	13	火	II	睡眠学PBL 睡眠障害と関連疾患に関する病態の理解・治療をPBL形式で学習する (自己・相互評価)	チューター	未定
8回	7	3	月	I	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の歯科的な治療法について	江崎和久	講義室6B
9回	7	3	金	II	睡眠時ブラキシズムの病態 睡眠時ブラキシズムの病態生理について	加藤隆史	講義室6B
10回	7	6	木	V	サーカディアンリズムと睡眠調節機構の最新知見 “Timing is Everything”	中村渉	講義室6B
11回	7	20	木	I	睡眠学概論 自然睡眠の生理学的な役割(サーカディアンリズム)と睡眠障害の病態 生理について	篠原一之	講義室6B
12回	7	20	木	II	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的治療法 閉塞型睡眠時無呼吸症候群の医科的な治療法について	内村直尚	講義室6B
13回	7	24	月	IV	閉塞型睡眠時無呼吸症候群の治療の実際 長崎大学での歯科的診断と治療の実際	柳本惣市	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054619		
科目ナンバリング・コード	DNGD33411990		
授業科目名/(英語名)	高齢者歯科学/(Geriatric Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内 7690)/火曜 17:00~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	黒滝直弘(精神神経科学)、吉田圭一、三串伸哉、柳口嘉治郎、讃岐拓郎、吉村篤利、住田吉慶、介田圭、藤 宣好(学外非常勤講師)、鳥巢哲朗、梅田正博、村田比呂司、黒木唯文、会田薫子(学外非常勤講師);実習:鳥巢哲朗、黒木唯文、吉田和弘、江越貴文、高瀬一馬、稲光宏之		
授業の概要及び位置づけ			
<p>高齢者歯科学は、歯科医療を通して高齢者の健康増進を図ることを目的とした臨床科目である。老化という誰も避けて通れない生理的な生命現象を理解した上で、高齢者に対する歯科的取り組みを学習する。超高齢社会となったわが国において、高齢者歯科への需要はますます増加することが予想される。高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.老化の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。</li> <li>2.老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。</li> <li>3.高齢者に多く見られる疾患を説明できる。</li> <li>4.高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。</li> <li>5.高齢者に対して基本的な歯科治療を説明できる。</li> <li>6.要介護者の歯科治療を説明できる。</li> <li>7.摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。</li> </ol>			
授業方法(学習指導法)			
専門の異なる学内外の教員、非常勤講師によってオムニバス方式でなされる。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 回目 高齢者歯科学(認知症のいろは)</li> <li>2 回目 補綴(冠橋義歯)診療</li> <li>3 回目 嚥下リハ</li> <li>4 回目 保存(修復、歯内)診療</li> <li>5 回目 全身合併症の要点(全身管理の要点)</li> <li>6 回目 保存(歯周)診療</li> <li>7 回目 口腔外科診療</li> <li>8 回目 在宅診療①</li> <li>9 回目 実習①</li> <li>10 回目 まとめ</li> <li>11 回目 補綴(有床義歯)診療</li> <li>12 回目 実習②</li> <li>13 回目 長寿時代の臨床死生学</li> <li>14 回目 予防歯科診療</li> <li>15 回目 在宅診療②</li> </ol>			
キーワード	高齢者		
教科書・教材・参考書	教科書:老年歯科医学 第1版(医歯薬出版) 参考書:適宜指示あり		
成績評価の方法・基準等	成績評価は定期試験により行う。また授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	質問は遠慮なく各担当教員にしてください。なお講義の内容や順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	金	I	高齢者歯科学 内容:認知症のいろは	黒滝直弘	講義室6B
2回	4	7	金	II	補綴(冠橋義歯)診療 高齢者の冠橋義歯に関わる診療の要点と注意点, 診療の実際	吉田圭一	講義室6B
3回	4	21	金	III	嚥下リハ 高齢者の食・生活へアプローチ	三串伸哉	講義室6B
4回	4	21	金	IV	保存(修復、歯内)診療 高齢者の身体的、精神的特徴を考慮した治療法について紹介する	柳口 嘉治郎	講義室6B
5回	5	8	月	V	全身合併症の要点(全身管理の要点) 加齢による全身的な生理学的や全身合併症の歯科治療時の注意点 について概説する	讃岐拓郎	講義室6B
6回	5	19	金	V	保存(歯周)診療 高齢者の歯周組織の特徴と歯周治療の実際	吉村篤利	講義室6B
7回	5	22	月	V	口腔外科診療 高齢者の口腔外科診療に対する考慮点や診療の実際について	住田吉慶	講義室6B
8回	6	6	火	I	在宅診療①	藤 宣好 (非常勤)	講義室6B
9回	6	6	火	II	実習① 高齢者の評価・検査(舌圧、心理・認知検査、日常生活能力など)	鳥巢哲朗 他	講義室6B
10回	6	6	火	III	まとめ 在宅歯科医療を安全に行うための態勢や病診連携システムの構築に ついて概説する	梅田正博	講義室6B
11回	7	13	木	I	補綴(有床義歯)診療 高齢者の有床義歯補綴の概要と実際、必要な口腔機能の評価	村田 比呂司	講義室6B
12回	7	13	木	II	実習② 疑似高齢者体験、訪問診療実習、介護基本実習	黒木唯文 他	講義室6B
13回	7	24	月	V	長寿時代の臨床死生学 フレイル評価をAdvance Care Planningに組み込むことによる高齢者 医療と看取りの改革	会田薫子 (非常勤)	講義室6B
14回	7	26	水	IV	予防歯科診療 加齢による口腔および全身の生理学的変化に対応した口腔ケア	介田 圭	講義室6B
15回	7	28	金	IV	在宅診療②	藤 宣好 (非常勤)	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 月、火、水、金・Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	必修選択 必須	単位数 (20)
授業コード	25054620		
科目ナンバリング・コード	DNGD33421990		
授業科目/(英語名)	障害者歯科学 (Special Care Dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義	教室 講義室6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔・特歯部教員室/TEL:095-819-7713/月・金 17:00-18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	鮎瀬卓郎、田上直美、鮎瀬てるみ、釜崎陽子、野上朋幸、長田 豊、		
<p>授業の概要及び位置づけ/授業到達目標/授業方法 (学習指導演) (500 文字)</p> <p>障害者の口腔疾患の特徴、口腔機能発達支援、歯科からの健康支援などについて理解を深める。併せて、口の健康を通じて QOL を守るという歯科医師の役割について考察する。/①主な障害の身体的および精神的特徴の要点を説明できる。②歯科治療に必要な行動調整(管理)方法を列挙できる。③障害者、有病者に対する歯科保健指導の要点を説明できる。/基本的に講義形式とする。ただし、双方向コミュニケーションを促すため質問は随時受け、学生の要望によりテーマ内容を掘り下げることがある。また、問題解決型のテーマも提示し、レポートを課す。重要なテーマについては第一線で活躍中の講師がそれぞれの専門について講義する。実地研修は臨床特別実習時において行う。</p>			
<p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)</p> <p><b>概要</b> 前半で障害者歯科学の関連用語、概念を学ぶ。後半は有病者を含め、具体的な歯科対応例について考察する。</p> <p><b>授業内容</b></p> <p>1 回目 障害者歯科学序論</p> <p>2 回目 障害の理解 I</p> <p>3 回目 障害の理解 II</p> <p>4 回目 障害者の歯科医療の理解 I</p> <p>5 回目 障害者の歯科医療の理解 II</p> <p>6 回目 特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 I</p> <p>7 回目 特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 II</p> <p>8 回目 特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 III</p> <p>9 回目 障害者の歯科治療の実際 I</p> <p>10 回目 障害児の歯科治療の実際 II</p> <p>11 回目 スペシャルニーズのある人の口腔健康支援</p> <p>12 回目 障害者の歯科治療の実際 III</p> <p>13 回目 まとめ</p>			
キーワード	障害者、行動管理、有病者、口腔保健管理		
教科書・教材・参考書	講義内容のプリントを配布予定 参考書: Special Needs Dentistry 障害者歯科(小笠原正 ほか 編 医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	学期末に提出されるレポートにより主たる評価を行う。そのほか、授業への貢献度、小テストを加味して総合的に評価を行う。比重は、レポート:7、小テスト:2、授業への積極的な取り組み(発言等):1を目安とする。		
受講要件(履修条件)	総講義時間の 2/3 以上の出席が必要となる。		
備考(学生へのメッセージ)	歯学となじみのない用語が多く、障害に関する基本概念を予習するほうが、理解が容易である。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	金	Ⅲ	障害者歯科学序論 障害者歯科学の定義(障害者福祉制度の理解) 障害者のもつ心理・社会的問題、障害者歯科医療と倫理、QOL	田上	講義室6B
2回	4	7	金	Ⅳ	障害の理解 Ⅰ 発達障害、神経運動障害、感覚器障害、音声言語障害 各疾患の重症度分類の理解と応用	田上	講義室6B
3回	4	25	火	Ⅲ	障害の理解 Ⅱ 精神および行動の障害、歯科治療時に配慮すべき全身疾患・難病、症候群 高齢者に特有の障害の理解(認知症、フレイル、サルコペニア、嚥下障害)	鮎瀬て	講義室6B
4回	4	25	火	Ⅳ	障害者の歯科医療の理解 Ⅰ 患者評価の要点、コミュニケーションの重要性、多職種との連携チーム医療 リスク評価と医療安全確保	鮎瀬て	講義室6B
5回	4	28	金	Ⅲ	障害者の歯科医療の理解 Ⅱ 行動調整法の選択基準(行動療法、体動調整法、薬物的行動調整法) 鎮静法、全身麻酔の利点と欠点	鮎瀬て	講義室6B
6回	4	28	金	Ⅳ	特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 Ⅰ 通法下での歯科治療が困難な疾患の理解 歯科治療恐怖症、異常絞扼反射、パニック障害など	野上	講義室6B
7回	5	1	月	Ⅴ	特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 Ⅱ 重篤な合併疾患を有する患者の全身評価および治療計画立案 循環器系疾患の歯科治療におけるリスクなど	田上	講義室6B
8回	5	24	水	Ⅴ	特別な配慮が必要な患者の全身管理方法 Ⅲ 易感染・易出血性患者の歯科対応 血液疾患、HIV感染症など	鮎瀬て	講義室6B
9回	6	7	水	Ⅲ	障害児の歯科治療の実際 Ⅰ 障害児の歯科治療で注意すべき要点(症例提示) 病病連携の実際、	釜崎	講義室6B
10回	6	7	水	Ⅳ	障害者の歯科治療の実際 Ⅱ 障害者の歯科治療の注意すべき要点(症例提示) 病診連携、離島僻地医療、長崎県の障害者歯科医療の実際	長田	講義室6B
11回	6	12	月	Ⅲ	スペシャルニーズのある人の口腔健康支援 入院患者の口腔保健管理、口腔ケアの意義、多職種連携 地域における障害者歯科、在宅医療の重要性	野上	講義室6B
12回	6	12	月	Ⅳ	障害者の歯科治療の実際 Ⅲ 障害者と歯周疾患管理の重要性 長崎県口腔保健センターにおける取組(症例提示)	長田	講義室6B
13回	7	5	水	Ⅴ	まとめ 補講、小テスト	鮎瀬卓郎	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054621		
科目ナンバリング・コード	DNGD33431990		
授業科目名/(英語名)	離島歯科医学/(Dentistry in remote island)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 齋藤俊行/syto@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学教授室/095-819-7662(内 7662)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバ ス科目等)	齋藤俊行、小山善哉、前田隆浩(医学部)、溝口勝令(岐宿歯科診療所)、小牧憲明(小牧歯科医院)、 西山 毅(鹿児島大学)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>離島歯科保健医療実習について、その意義や目的を学ぶ。  長崎県は日本一離島が多い県である。離島における歯科医療、保健、福祉について学習する。  後期から始まる実習では介護や行政の仕事を実際に体験し、歯科医院実習では訪問歯科や小離島診療所ほか、離島ならではの診療の様子、求められる歯科のあり方を知ることができる。</p>			
授業到達目標			
<p>地域における保健、福祉、医療の実際を体験し、多職種の実務を理解する。医療保健福祉の様々なフィールドで求められている歯科の必要性、あり方、歯科と多職種連携の意義、取り組み方を理解する。</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義形式			
授業内容			
<p>1 回目: 離島における巡回口腔ケアについて(溝口勝令)  2 回目: 離島における歯科医療について(小牧憲明)  3 回目: 離島における保健・福祉について(小山善哉)  4 回目: 離島の定義、特徴および離島医療について(前田隆浩)  5 回目: 離島歯科保健医療実習について1(小山善哉)  6 回目: 鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について(西山 毅)  7 回目: 離島歯科保健医療実習について2(齋藤俊行)</p>			
キーワード	離島、地域医療、保健、福祉		
教科書・教材・参考書	離島・へき地医療学講座、離島医療研究所ホームページ、 [ <a href="http://ritouken.net/ritouken/index.html">http://ritouken.net/ritouken/index.html</a> ]		
成績評価の方法・基準等	試験またはレポート		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	24	月	I	離島歯科医学1 離島における巡回口腔ケアについて	溝口 (非常勤)	講義室6B
2回	5	26	金	V	離島歯科医学2 離島における歯科医療について	小牧 (非常勤)	講義室6B
3回	7	3	月	V	離島歯科医学3 離島における保健・福祉について	小山	講義室6B
4回	7	20	木	V	離島歯科医学4 離島の定義、特徴および離島医療について	前田 (非常勤)	講義室6B
5回	7	25	火	III	離島歯科医学5 離島歯科保健医療実習について1	小山	講義室6B
6回	7	25	火	IV	離島歯科医学6 鹿児島大学の実施してきた離島歯科巡回診療について	西山 (非常勤)	講義室6B
7回	7	26	水	V	離島歯科医学7 離島歯科保健医療実習について2	齋藤	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054623		
科目ナンバリング・コード	DNGD33441990		
授業科目名/(英語名)	社会歯科学/(Social dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 齋藤俊行/syto@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学教授室/095-819-7662(内 7662)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバ ス科目等)	齋藤俊行、福田英輝		
授業の概要及び位置づけ 社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について学習する。			
授業到達目標 社会保障と医療経済及び歯科関連の法律と制度について学び理解する。			
授業方法(学習指導法)  講義形式			
授業内容  1 回目: 社会保障と医療経済(福田:5/23, 1 校時) 2 回目: 歯科関連の法律と制度(齋藤:5/23, 2 校時) 3 回目: 社会保障と医療経済(福田:5/30, 1 校時) 4 回目: 歯科関連の法律と制度(齋藤:5/30, 2 校時)			
キーワード	社会保障、医療経済、歯科関連の法律と制度		
教科書・教材・参考書	国民衛生の動向(厚生労働省ホームページ) 口腔保健・予防歯科学(医歯薬出版) [新予防歯科学 第4版、新口腔保健学の改訂本] 衛生学・公衆衛生学(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準 等	試験又はレポート		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセ ージ)			

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	23	火	I	社会保障と医療経済 社会保障制度、医療保険制度、および国民医療費について説明する。	福田	講義室6B
2回	5	23	火	II	歯科関連の法律と制度	齋藤	講義室6B
3回	5	30	火	I	社会保障と医療経済 社会保障制度、医療保険制度、および国民医療費について説明する。	福田	講義室6B
4回	5	30	火	II	歯科関連の法律と制度	齋藤	講義室6B

年度 2017 学期 前期	曜日・校時 時間割を参照	必修選択 必修	単位数 (20)
科目番号	25054624		
科目ナンバリング・コード	DNGD33451992		
授業科目名/(英語名)	総合歯科学/(Integrative dentistry)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6B	
対象学生(クラス等)	科目分類 統合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)	藤原 卓, 他		
授業の概要及び位置づけ			
<p>基礎, 臨床講義が一通り終了した時点で,</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) これまでの復習とまとめを歯学教育コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準と関連づけて整理する.</li> <li>2) 臨床実習に向けての知識の整理を行う</li> </ol>			
授業到達目標			
<p>歯学教育コアカリキュラムを理解する          歯科医師国家試験出題基準を理解する          臨床実習に必要な知識を理解する</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義, グループ学習			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 回目: 概要説明, 歯学教育コアカリキュラム, 国家試験出題基準について</li> <li>2 回目: 基礎系歯科学 1</li> <li>3 回目: 基礎系歯科学 2</li> <li>4 回目: 臨床系歯科学 1</li> <li>5 回目: 臨床系歯科学 2</li> <li>6~9 回目: 自習</li> </ol>			
キーワード	歯学教育コアカリキュラム, 歯科医師国家試験出題基準, 共用試験		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準 等	共用試験 CBT に合格することをもって修了認定とする. 評価は CBT の得点に出席やレポート点を加味して行う		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセ ジ)	詳細は, 授業開始時に説明の予定		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	金	V	概要説明, 歯学教育コアカリキュラム, 国家試験出題基準について	未定	講義室6B
2回	4	14	金	V	基礎系歯科学1	未定	講義室6B
3回	4	21	金	V	基礎系歯科学2	未定	講義室6B
4回	4	28	金	V	臨床系歯科学1	未定	講義室6B
5回	5	12	金	V	臨床系歯科学2	未定	講義室6B
6回	7	12	水	V	自習		講義室6B
7回	7	19	水	V	自習		講義室6B
8回	7	27	木	IV	自習		講義室6B
9回	7	27	木	V	自習		講義室6B